

平成 22 年度市民活動応援補助金審査に対する意見

【公開プレゼンテーションについて】

- 以下の点について事前のガイダンスで徹底する必要がある。
 - ・委員の質問に対する回答が長すぎる団体があった。
 - ・会場へ問いかけをする団体があった。
 - ・模造紙以外に現物を提示している団体があった。
- ユニフォームを着用している団体があった。これは模造紙以外のアピールになる可能性が高く、禁止した方がよい。
- おそらく委員の皆さん全員が感じたと思うが、プレゼン資料がまったく見えなかった。発表資料を A4～A3 の横（フルスクリーンになる）にすれば、PDF にしてパソコンに取り込み可能と思う。あわせて、委員の手元に紙資料があると助かる。
- 発表者の事業内容を記載した模造紙の写りを鮮明にしてほしい。
- プレゼン終了後の委員会でも話が出たが、模造紙の拡大は再考の余地があると思う。

【発表方法について】

- 5 分の発表時間は短いようにも感じたが、後の質問の時間に余裕のある方が良いと思うので、発表時間は 5 分でも良いかなと思う。
- 3 組ごとの発表と質問は、分かりやすく良かったと思う。

【審査について】

①申請書類の内容について

- ・予算は、申請事業の部分だけよりも、団体の活動状況全体が見える方が判断しやすいと思う。（そのうちの申請がどれだけで、補助なしでも自立運営可能なのかなど。）

②審査基準について

- ・点数制の判断基準は最終的な方法で良いと思う。（公益性重視、合計ボーダーライン、最低最高点を除いて審議など。）
- ・もう少し委員の皆さんの判断基準の意見交換ができればよかったと思う。

③採点について

- ・委員長のコメント、観点は他の委員と異質で、良質のものであった。また、地域とのかかわりがなく（事業との関連がなく）、評点を 2 倍にして重みをつけてはどうか。

④集計について

- ・採点の集計が一人で大変であった。1 グループ 3 団体が終わるごとに用紙を回収し、入力する係を置けば、時間を短縮できる。
- ・当日事務局は多忙で、お昼ご飯も食べずに集計作業に従事してくれた。来年も同じ方法での集計なら、委員の採点データを入力するだけで EXCEL のマクロと関数を使って

集計表を作成できるようなプログラムを開発できると思うので、事前に連絡をいただきたい。

⑤審査員・審査方法について

- ・申請されたいずれかの事業に何らかのかかわりのある委員は全面的に審査から外れていたが、そこまで徹底する必要はないと思う。
- ・個人的な利害関係が審査に反映されないように、各事業への委員の採点を集計するとき、最高点をつけた人と最低点をつけた人のデータを除いて集計するオリンピックのような採点方法で評価することを提案する。オリンピックでは、このような方式で、出場選手と審査員が同一国である場合に発生しやすい不平等を回避している。現行方式では、委員からの申告がない場合、気づかずに審査に加わる恐れ、また、多くの審査員がいずれかの事業に関与している場合に審査員数が極端に少なくなる可能性、あるいは故意に関与を申請して審査作業から逃れることを防止できる。

⑥1次審査・2次審査の考え方について

- ・時間が少ない。一次の点数をもらっておいて、それに修正を加える形が良い。
- ・市民運動はある意味でオリンピックのように参加することに意義があると思う。もちろん予算は無限にあるわけではなく、すべてに満額の補助金を付与する必要はなく、審査で選別と絞り込みは必須であるが、1次審査を通過して、新たに資料を作成し、2次審査に臨み、発表まで行ったが、結果何も得られないというのは気の毒と思う。
- ・最終的な予算値が、最後に議会の議決で変更になってしまえば仕方がないが、そうでないことを想定して、査定ゼロにするものは、すべて1次で落とすことにしたい。逆に言えば2次審査に進んだものについては、その内容により補助金額の多寡を決定するが、原則ゼロにはしない。

この場合、現行方式に比べて、採用となる事業数が増え、事務局の負担が増えることが予想されるが、以下により事務局作業を軽減してはどうか？

審査では、予算書のどの支出予定項目に対して付与するのかまで決定して通知する。これにより、審査も具体的な項目に対応するため、審議がはっきりする。実施結果報告での確認は、領収書が予算に示された予定項目かどうかだけチェックすればよく、作業が楽になる。なお事業の進展により、認可と異なる項目への支出を希望する場合は、使途変更伺い書を提出させ、その是非を個別に審査する（必ずしも委員会全体で行う必要はないと思う）。

⑦その他

- ・二次審査の当日に、各申請団体の市との係わり、関係各課意見の資料が渡されたが、市との係わりの部分だけでも早めにいただきたかった。先入観を入れないためとは思いますが、団体が多種多様であり、特に福祉関係の団体は似たような活動が多く、情報がないと判断に苦しむ。
- ・15団体の審査は、正直少し疲れた。